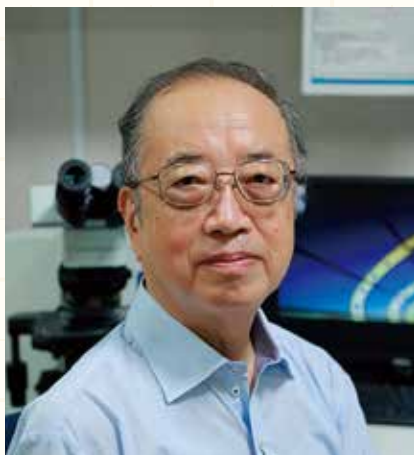


人生に音楽があって良かった

中央区・城山支部 鹿児島医療センター | 後藤 正道



国立療養所星塚敬愛園を2019年に定年退職し、その後は国立病院機構鹿児島医療センターの病理診断科に勤務している病理医の後藤です。鹿児島市医師会には、演奏家や音楽愛好者がたくさんいらっしゃるのですが、私の書いたものはあまり役に立たないかもしれませんが、長く合唱や録音をやってきたので、72歳の区切りに少し綴ってみます。

生まれてから9歳まで、私は佐賀の片田舎にある結核療養所の宿舎に住んでいました。姉がピアノを習っていたので私も一緒にレッスンに通いましたが、練習は嫌いで先生の前で大あくびをするので、母がひやひやしていたそうです。でも楽譜が読めて簡単なフレーズをピアノで弾けるようになったのは、後で役に立ちました。

中学からは鹿児島のラ・サールに入学して寮生活を始めましたが、寮の娯楽室にはポップス系のドーナツ盤レコードがあって、映画音楽やビートルズなどの洋楽に触れました。MBCラジオで放送されていた洋楽を紹介する番組も貴重な情報源でした。

高校生になってから、男声合唱のグリーク

ラブに入りました。音楽の森川諄一先生の指導で、ポップス、黒人霊歌、ラテン語無伴奏のミサ曲などを歌っていて、西部合唱コンクールにも出ました。また、市民クリスマスでMBCジュニアオーケストラとヘンデルのメサイアを歌ったのがきっかけで、合唱とオーケストラによる宗教曲の魅力にとりつかれました。

鹿児島大学に入学して、男声合唱団フロイデ・コールに入りました。夏休みには県内の学校を廻る演奏旅行がありましたが、そのための強化練習があり、たくさんの曲を覚えしました。演奏旅行では1日に4校で歌うこともあり、4校目では疲れた表情をしていると、団長から「俺たちにとっては4回目でも生徒にとっては初めての男声合唱だ。笑顔で歌うぞ!」と活を入れられました。後に外来診療で多くの患者を診てへたばかりかけた時には、この言葉を思い出して頑張りました。

フロイデのパートリーダーや副指揮者を担当したり、白鳥バレエ団の九州公演に男声カルテットで同行したり、宗教音楽研究会でモーツァルトの戴冠ミサやレクイエムなどを歌ったりしました。また、鹿児島大学医学部附属看護学校の女声クローバー・コーラスの指揮をしました。しかし医学部の専門課程が始まると、医学部から本学への練習に通うことが大変になり、フロイデは中退となり、その後は合唱から疎遠になってしまいました。ちなみにフロイデは現在はなくなりましたが、そのOB合唱団である楠声会（なんせいかい）は常時約40名で活動し、演奏会では全国から集まった総計100名がステージに

立っています。

合唱はやめても、音楽を聴くことは続けていました。大学院に入った時、病理学第二講座の佐藤榮一教授は素晴らしいオーディオ装置をお持ちでした。私は高価なオーディオ機器は買えませんでした。それでも良い音で聴きたかったので、STAXのコンデンサーヘッドフォンや、中古で買ったMAGNEPANの平面スピーカーなどを使っていました。また、知人や自分の関係した演奏会を客席や吊りマイクで無指向性マイクとデジタルテープ(DAT)で録音したものが200本ほどになりました。教室の先輩でテノール歌手としても有名な米澤傑先生の演奏を録音してCDを作る手伝いもしました。

私が通っているカトリック谷山教会の主任司祭だったドイツ人のムイベルガ(Josef Müllberger)神父は鹿児島大学でドイツ語も教えていましたが、音楽に造詣が深く、モーツァルトやハイドンなどのミサ曲を実際にミサの中でオーケストラやソリストを交えて演奏するために、2006年に聖アルフォンソ合唱団を結成しました。現在、私はこの合唱団の団長をしています。

また、前述した森川先生が2006年に設立した鹿児島ハイドン協会の合唱団では、団長で耳鼻科医の伊東祐久先生に田上クリニックの練習会場を提供してもらい、2020年までにハイドンのミサ曲をオーケストラと一緒にほぼ全曲を演奏してから、解散しました。

同じように、合唱とオーケストラで宗教曲を演奏するために鹿児島国際大学教授でドイツ人テノール歌手のウヴェ・ハイルマン(Uve Heilmann)先生が設立したハイルマン合唱団にも2022年から参加して、これまでヘンデル/メサイア、バッハ/マタイ受難曲、ハイドン/天地創造、モーツァルト/レクイエム、バッハ/クリスマスオラトリオなどの合唱と短いソロを歌ってきました。

2014年からは、日本で一番歴史のある霧

島国際音楽祭の鹿児島友の会の会員になり、現在は役員も務めています。みやまコンセルに日本とアジア諸国から才能のある若い演奏家が集まって、2週間のマスタークラスで切磋琢磨する教育音楽祭で、ここで賞をとった受講生は各地で活躍しています。マスタークラスの一部は聴講可能で、音楽を創っていく過程を体験できます。ぜひ友の会の会員になって、鹿児島の音楽文化を支えて下さい。ご興味のある方は私までご連絡下さい。

鹿児島の若いジャズピアニスト松本圭使さんが立ち上げた鹿児島ジャズフェスティバルは、今では日本屈指のジャズミュージシャンの集いになりました。良い音楽はジャンルは関係なく素晴らしいものです。こちらの支援もお願いします。

ということで最後は宣伝とお願いになりましたが、私たちの暮らす鹿児島が次世代の若い医療者たちを引きつける魅力的な場所であるためにも、文化を支え発展させていくことは私たちの務めだと思います。どうか皆様のご協力をお願いいたします。